



# 秋田内陸線の存続に向けて 下

秋田内陸縦貫鉄道を守る会



内陸線全線開通(平成元年4月1日、上桧木内駅)

レールは敷かれてはいるが、汽車は運行しない……。

昭和59年、松葉～比立内間の未開通区間を残しての鉄道工事凍結は、国の施策とはいえ誠に残念なものでした。しかし、間をおかず国鉄から引き継ぐ形で秋田内陸縦貫鉄道が設立され、秋田内陸南線と秋田内陸北線の部分開業を続けながら迎えた平成元年の全線開業は、地域の隆盛を願ひ伝来の田畑を提供し、全線開通の悲願を叶えた先人の想いと沿線地域住民の想いが一つになった、待ちに待った瞬間でありました。

「憧れの鉄道、夢にまで見た汽車が、上桧木内に運行した!」20年前のこの想いは、山里の小さな集落の日常生活を大きく変えました。角館町をはじめ、街部への往来が容易になり、高校生も自宅から通学できるようになりました。当然、家族の会話も増え、大人や子どもはもとより地域に快活さを生みました。地域はあらためて交通機関の果たす役割の偉大さを感じたものでした。

しかしながら、マイカーへの依存度の高まりや沿線地域人口の減少により、乗客数の減少に歯止めがかからず、秋田県や沿線自治体からの赤字補てんが続く現状は、如何ともしがたく誠に心の病める問題であります。

幸い、内陸線沿線自治体は魅力的な観光資源を豊富に有しています。その資源を磨活し、広域的な取り組みをもって、沿線住民の乗車で賄えない部分は県内外の人たちの乗車により補う施策等により、内陸線の再生も可能に思われます。

秋田内陸線の廃止は、沿線住民の脚路を絶つばかりではなく、沿線自治体が有する魅力資源の発信を絶やし、県内を訪れる観光客等のアクセス路線としての重要な役割をも閉ざすものと考えますが、寺田知事の“9月に存廃決断”発言以来、県内外の多くの方々が内陸線の存続に関心を示してくださり、存続に向けた支援の輪が広がりつつあることを大変心強く思います。

厳しい経済社会情勢のもと、廃線の危機にある秋田内陸線ではありますが、私たちの想いはひとつであります。地域が日々元気よく暮らせるために、明日への希望を乗せ走り続ける秋田内陸線を守り続けることにあります。



## 秋田内陸線沿線500歳野球交流試合で熱戦

内陸線を活用した市民交流を進め乗車促進につなげようと、7月27日、西明寺小学校グラウンドで仙北市西木と北秋田市阿仁の500歳野球チームによる交流試合が行われました。試合は和やかなムードの中にも1点を争う引き締まった展開となり、結果は8対7で西木チームが勝利しました。試合後、選手達からは、内陸線があるからこそこの市民交流、こうした利活用が様々な分野にも広がって欲しいと話していました。

